



JIC インフォメーション

第 237 号 2026 年 1 月 10 日
年 4 回 1・4・7・10 月の 10 日発行
1 部 500 円

発行所: JIC国際親善交流センター 発行責任者: 伏田昌義

<https://www.jic-web.co.jp>

東京オフィス: 〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-10-5 岡田ビル 6 階 TEL: 03-3355-7294 jictokyo@jic-web.co.jp

大阪・ロシア留学デスク: 〒540-0012 大阪市中央区谷町 2-2-22 NSビル 5 階 TEL: 06-6944-2341

はりねずみのジェーニャ

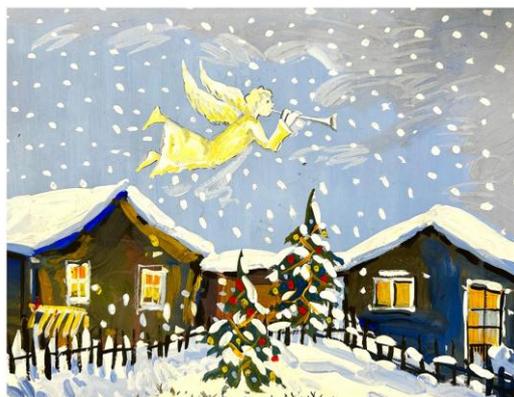


あけましておめでとうございます

本年も ^{ジェーアイシー} JIC をよろしくお祈いします!!

С НОВЫМ 2026 -ЫМ ГОДОМ!!

ロシア・旧ソ連
国際交流誌



(写真) モスクワのクリスマス・新年風景

<本号の内容>

- 恒例のスタッフ新年あいさつ……テーマは「10年後の夢」…………… 2-11P
- 徳山あすかのモスクワ生活…ペテルブルク弾丸旅行 ……………… 12P
- こんな時代にロシア語のすすめ (連載第 14 回) …黒田龍之助…………… 16P
- ロシア語映画発掘上映会 20 回の軌跡……………守屋愛…………… 19P
- 日口極東学術交流シンポジウム、ほか………………………… 21P

Jクラブ(JIC友の会)会員募集中。年4回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

謹賀新年！

JICスタッフより新年のご挨拶

本年もよろしく願いたします



毎年1月号恒例のスタッフ新年あいさつです。ジェーアイシー旅行センターは今年で会社設立40周年を迎えます。JIC国際親善交流センターの対ソ連・ロシア交流を実務面で支えるため、上田卓三会長の指示で会社が設立されたのは1986年4月のことでした。青年交流や教育交流、平和交流の旅行手配から始め、ソ連船クルーズの受入れ、ロシア語私費留学やホームステイ交流などに手を広げ、ロシア・モンゴル・中央アジアなど旧ソ連地域専門の旅行会社として実績を重ねてきました。この間、リーマン・ショックや東日本大震災、新型コロナ・パンデミックさらにはウクライナ戦争と、度重なる困難の荒波に揉まれながらも、何とか会社を維持し旅行業務・交流事業を続けることができたのは、ひとえにJICを応援して下さる多くの皆様のご支援と、会社を支えてくれるスタッフたちの献身のおかげです。今後50周年、60周年と会社が続くことを期待して、今年のテーマは「10年後の夢」としました。JICスタッフのそれぞれの夢、日頃の思いや小さな気づきを味わってみてください。

JICは、日ロ市民交流を支える社会インフラとなるべく、ロシア旅行・ロシア語留学・日ロ文化交流に邁進する決意です。本年も、ジェーアイシー旅行センターおよび国際親善交流センターをよろしく願いたします。

ロシア・ウラジオストク再訪と 現地で見た新しい国境管理

杉浦 信也(ジェーアイシー旅行センター代表取締役)

昨年は、ウラジオストク1回、モンゴル・中国へ2回と、私にしては珍しく海外出張が多い一年でした。中でも特に印象に残ったのが、9月にハルビン経由で2年ぶりに訪れたウラジオストクでの入国手続きです。ロシアでは2024年12月からモスクワのシェレメチェヴォ空港など4空港で、指紋と顔画像の採取が始まり、2025年6月からは全ロシアの国境地点で実施されるようになりました(ベラルーシ国籍者を除くすべての外国人が対象。ロシア政府令 No.1510)。

ロシアで始まった入国時の生体情報採取制度

今回は制度開始後初めてのロシア入国でした。空港のパスポートコントロールで、私を含む数名の外国人が審査場横の椅子で待機するよう指示され、その後個室に案内されました。そこで審査官から入国目的を確認され、別の係員によって顔写真と指紋の採取が行われました。モンゴルや中国でも同様の採取はありますが、そちらは自動化された最新システムが整っています。一方、ウラジオストクでは古い機材が使われていて、審査官が手で指の角度を調整するなど、かなり昔ながらの方法でした。ロシア全土の国境地点の全ての入国審査のブースにわずか半年ほどで最新設備を導入するのは難し



ハルビンからウラジオストクへ、アエロフロート機内の様子

く、結果として空港に1台しかない装置を個室で一人一人順番に使う形になっているようです。現場の国境警備の方々も急な制度変更に対応しなければならず大変そうです。

※注:外国人を対象とした指紋・顔画像採取は、日本でも入国の際にテロ対策や不法入国の防止を目的とした出入国管理法の改正により2007年から実施されています。

さてさて、入国審査を終えて到着後約1時間で同行の旅行者とともに空港を後にしました。2年ぶりのウラジオストクは街並みも変わらず、金角湾クルーズやルースキー島の水族館でイルカショーを楽しむことができました。

日露の往来と2026年のJIC活動

2025年1~11月には、過去最高となる18万6,700人のロシア人が日本を訪れたそうです。一方、日本からロシアへの

渡航者は、ロシア国家統計局によると昨年9月までで約4,000人にとどまっています(コロナ禍前年の2019年は11万2,000人の日本人がロシアを訪問)。



(上)金角湾クルーズ、(下)ルースキー島水族館のイルカショー

私たちJICもインバウンド事業の比重が年々高まっていますが、ロシアへの留学生派遣や短期語学グループ研修、少人数のロシアツアーなども継続して実施しています。

今年は、かねてから希望者の多いウラジオストク～モスクワ間のシベリア鉄道全線ツアーを再開したいと考えています。外務省の安全情報は依然レベル3(渡航中止勧告)のままですが、安全を確認しながら実現に向けて準備を進めて参ります。ご興味のある方はぜひご参加ください。

※1 ロシア連邦政府令 2024年11月7日 第1510号

<http://publication.pravo.gov.ru/document/0001202411130026>

※2 外務省ロシアの安全情報はレベル3(渡航中止勧告)ですが、但し書きを修正して、ビジネス、留学、人道目的など真にやむを得ない事情がある場合は特別な注意を払うことを条件として渡航・滞在を妨げないとなりました。

https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionsbothazardinfo_178.html#ad-image-0

※3 JIC ロシア渡航の注意

https://www.jic-web.co.jp/pdf/entry_russia.pdf

「自分で自分をご機嫌に」

小西 章子 (JIC 大阪)

あけましておめでとうございます。

2025年は万博イヤーでしたね。大阪在住なので、足しげく通いました。大阪のおばちゃんのカバンにはほぼミャクミャクがついているというウワサ(冗談?)も聞いたりしましたが、私のカバンにももれなくついております。



開幕日のミャクミャク。大雨で極寒!

2025年、ロシア情勢に目立った良い動きはなく、円安が進み、年末にかけて日中間の航空便キャンセルも相次ぎ、ロシア方面への渡航にはなかなか厳しい状況が続きました。しかし、ロシア旅行、出張、留学をする人は少しずつ増えており、ロシア以外のロシア語圏へもたくさんの留学生を送り出すことができました。とても嬉しいことです。

引き続き、2026年もJICをよろしくお願ひいたします。皆様のお役に立てるよう今年も精一杯頑張ります。

昨年、とある食品関係の企業で料理を作って応募するキャンペーンがあり、応募してみたところ幸いにも賞をいただいた、という出来事がありました。(賞状と、副賞としてその企業の色々な商品の詰め合わせをいただきました^^v)

ふと、大人になってから自分が作ったものに対して賞をいただけることってほとんどないな、この種類の嬉しさは子供の時以来かもと思い、なんとも言えないウキウキな気持ちになりました。そしてそれ以来、自分の中で食事を作ることがこれまでよりも楽しいものになった気がしています。時間はいつも不足気味だし、凝ったものを作っているわけではなく大抵は適当だし、だれに褒められるわけでもないのですが、切羽詰まっている時でも料理することがそんなに苦でなくなりました。週末にレシピを色々追ってみたい、食器を新し

く買おうという気になったり、いろいろとポジティブな変化も感じます。気持ちの持ちようって行動にかなり影響するんだなあと思った出来事でした。

とはいえ、分かりやすく褒めていただけることってそうそうないので、2026 年は、自分で積極的に自分のご機嫌をとって、行動もどんどんポジティブにしていきたいな、と思っています。

「話のネタに」

百瀬 智佳子(JIC 東京)

新年おめでとうございます。

さてこの毎年恒例のご挨拶には何を書くやら、毎年毎年全くもって頭痛の種です。いや皆様にお伝えしたいことがないわけではありません。むしろ積極的にございます。

それは「今年もまた皆様ご無事で楽しい旅をされますように。旅されなくても元気で過ごされますように」という本気の呪文のごときもので、毎度同じ数行で終わるところをあれこれ前置きをつけ字数を増やすのです。……が。そのつけたい、語りたいこと、これが本当でない。何しろ Facebook 全盛期に流行りにのってみたくてページを作ったものの眩きたいことは何もなく、一つもなく、結局一文字たりとも書かずに終わった私。当然ブログも X もやりません。それでいて人様の書いたものは楽しめてしまうので完全に受動一辺倒の人間なのです。

困り果てた私が部屋を見回しネタを探したところ、ロシアの教会の絵を発見しました。昔々にイズマイロボの蚤の市で不要になった手持ちの小物とバスターで貰った写生画です。……これ、どこの絵なのかねえ？ 寄越した本人は「教会だよ」と見りや分かることしか言わず、でも写真系だからして見本があるのではないかしら、想像



もちろん作者不詳

で書くより楽なもの。と、かねての疑問を突如再燃させた私は画像検索を試みました。結論としては多分モスクワのノヴォデヴィチ修道院で塔もそっくり。しかしドームの色や道や草木は適当に変えたのでしょう。

この世にスマホもない頃からの疑問に答えを得られる日が来るなんて、近頃の検索ツールは凄いですね。皆様も本体がわからず長年手元に置いておいでの何か、今なら分かることがあるかもしれません。話のネタに困られましたらお試してください。それでは皆様、今年もぜひぜひ、お元気で過ごされますように。

「10 年後の夢」

小原 浩子 (JIC 大阪)

今年 4 月がジェーアイシー旅行センターの創立 40 周年ということで、10 年後は自分がどうなっているのかを考えた時に、ふと思いついて過去 10 年ほどの自分のスケジュール帳に何を書き込んでいたのか、何に興味を持っていたのか確認してみました。

2015 年は大阪の仲間が一人また一人と抜けて、自分のふがいなさや力の無さをつくづく知らされた年。

2016 年は息子たちと初めてモンゴルに行き、2017 年には大阪事務所



のあったビルが取

アゼルバイジャンのバクーにて

り壊しのため事務所を移転しました。2018 年はロシアでサッカーワールドカップというビッグイベントがあり、イベント手配の難しさの中で TV 取材のコーディネート業務をやり切った年。2019 年は初めてブラゴヴェシエンスクのシベリア抑留者墓参の旅に参加し、それ以外にも 2 度の海外渡航をして、これからロシア旅行を伸ばしていけると期待していた 2020 年にコロナ禍で海外への渡航が厳しく制限されました。その後コロナが明けてもロシアとウクライナの戦争でまともな営業活動ができず、2022 年に税理士法人の総務システム部門に出向することに。2025 年は 6 月に出向を終わらせ、やっと JIC の業務に戻れた年でした。

毎年使っているスケジュール帳には、親切にもこれから 5 年後 10 年後の自身の姿を書く欄が設けられているのですが、子育て真最中の 2015 年 16 年頃は真っ白で、自分が何を指すのか、将来どうなりたいかも書けていませんでした。コロナの時期や出向の時期は手帳に「まったく先が見通せない」と書いてありました (泣)。そんな私が今考える 10 年後の夢はこんな感じ。

ロシアとウクライナの戦争が終われば、ロシアは潜在的な魅力のある地域が多く、宇宙開発や芸術分野では他の国よりも秀でた力を持っているので、芸術関連や学術関連の視察、取材や交流事業、ロシア語留学やバレエや音楽を極めるための芸術留学が大きく伸びても不思議ではありません。10 年後のジェーアイシー旅行センターは、ロシアだけでなく中央アジアやコーカサスへの旅行にも強みをもち、ユニークな企画を考案し、お客様のご希望にこたえられる手配力を備えたス

スタッフがいて、旅行も留学もできる旅行会社として、ロシア関係者だけでなく旅行代理店にも広く知られる存在になっているのではないのでしょうか(10年後はすでに私は定年を越えてJICにいなことになっているので、好きなように想像させてもらいました...)。2026年が皆様にとって夢のある年であるよう、祈念いたします。

「旅行の際の下調べ」

竹村 貢 (JIC 東京)

明けましておめでとうございます。インバウンド部の竹村です。

JIC のオフィスがある新宿エリアですが、外国人観光客を新宿御苑、新宿通り、駅でよく見かけるようになりました。

日本政府観光局の統計によると訪日外客数は2024年1月～11月は33,380,260人、2025年1月～11月は39,065,600人と前年より17%増えており、またロシアからの訪日客も2024年1月～11月は93,385人、2025年1月～11月は186,700と倍増しています。

JIC インバウンド部でも団体のお客さんが増え、昨年あるグループのホテルの予約を京都の三条付近で予約しました。このあたりはホテルやお店、レストラン、観光地が多くあり、便利なので予約したのですが、ツアー直前にバス会社から『バスはホテルまで行けません』と言われてしまいました(泣)。私の頭にはすぐに、怒りながらスーツケースを引きずっているお客さんの姿が浮かびあがりました。

東京の観光地ではバスの通行が禁止されている所はあまり聞きませんが、京都では四条通りや河原町通りの一部でバスの通行が禁止されています。そのため、ホテルへ行くにはバスが停められる場所から10分ほど歩くこととなります。お客さんに事前に伝えたので、今回は問題なかったのですが、中には荷物を持って少しでも歩くのは嫌という人もいますので、予約の際に注意しなければなりません。

京都に限らず、旅行する際の下調べは大切なのでみなさんお気を付けてください。月曜日(閉園日)に新宿御苑の門の前で、外国人観光客が残念そうにしている姿を最近をよく見かけます。

では本年もよろしくお願いたします。



帯広で乗馬しました！

「20年！」

五十嵐 真夕 (JIC 東京)

何が20年なんだ？と思いますよね。実は今年2026年4月1日で、私がJICに入社してから丸20年が経ちます。あつと言う間だった気もしますが、20年って長いですよ...。時の流れが恐ろしいです。あの頃生まれた赤ちゃんたちがそろそろ飲酒できる年齢になるなんて。そりゃ8cmのピンヒールを履いて通勤していた私の足元もスニーカーになるはずだわ。

JICに入社してからの20年は、それはまあエキサイティングで、入社直後に臨時会議という名の東京本社 VS 大阪支店のバトルが繰り広げられるわ、諸事情(リーマン・ショック等)によりお給料は一部カットされるわ、しばらくボーナスはないわで、実に色んなことがありました^^v

そして、たくさんのお客様の色々な旅程の手配をさせていただき、自分が実際に行かなくても手配で旅行を楽しませてもらえ、皆様のおかげで濃く幸せな思い出が詰まった20年になっています。今年もそんな思い出をひとつでもふたつでも増やしていけたらいいなあと心から思います。

さて、昨年の新年の挨拶では弾丸日帰り旅行を楽しんでいるという記事を書いたのですが、昨年は久しぶりに単独で宿泊旅行をする機会に恵まれ、9月に2泊3日で北海道に行ってきた。帯広に住む友人が遊びにおいでと誘ってくれたことが旅行のきっかけだったのですが、せっかく北海道に行くんだから、札幌に住む中学時代の友人にも会いたいと思い連絡し無事に会うことができました。友人と会うのは約8年ぶりだったので話にも花が咲き、また札幌市時計台やさっぽ

ろテレビ塔と一緒に行って観光を楽しむこともできました。外はあいにくの暴風雨でしたが、一緒に雨の中を走ったことも最高に楽しい思い出になっています！

帯広行き電車で乗るため札幌駅で別れたのですが、お互いに泣きそうになってしまい、それをごまかすようにそっけなく別れてしまったように思います。実はその友人と会う前は「北海道は遠いし、もしかしたら会うのは人生で最後になるかもな〜…」なんて思っていたのですが、涙を浮かべた友人の顔を見て、「また絶対に会いに来る！」と心の中で誓いました。

どんな旅行も不思議とドラマチックになるものですよね。今年も旅行で彩られた一年になりますように！

観光の未来はどうなっているのだろうか？

チスティリーナ・イリーナ (JIC モスクワ)

新年を迎える年末年始は、一年を振り返り、新しい年に何をしたいかを考える大切な時間です。

私たちの働く観光業界は、常に変化の最前線にあります。そんな中で、「10年後、世界の観光はどうなっているのだろうか？」と考えることがあります。10年というと、とても長い時間のように感じます。大きなプロジェクトを達成したり、大きな変化を起こしたりするには十分な時間です。しかし、10年前を思い出すと、あっという間だったと感じませんか？2036年までのこの10年も、すぐに過ぎてしまうかもしれません。

特に興味深いのは、旅行業界がどう変わるかということです。観光は、いつも新しい技術や社会の変化を映してきました。今後もテクノロジーが私たちの強力な味方になることは間違いありません。例えば、AI（人工知能）が予約プロセスや現地での体験を大きく変えるかもしれません。バーチャルリアリティ（VR）は、行く場所を事前に詳しく見られるようになるでしょう。また、新しいトレンドとして「slow tourism」（ゆっくり旅をする）が、これからの大きな流行になるかもしれません。

未来の観光について考えていると、有名なソ連時代の映画を思い出しました。それは、キール・ブリーチェフの小説を原作とした1985年の映画「未来からの訪問者（«Гостья из будущего»）」です。この映画では、主人公の少年コーリャ・ゲラシモフが未来にタイムスリップして、2084年のモスクワに行きます。そこにはコーリャがケンタウルス座からの観光客と出会います。バスはテレポート装置のような役割を果たして、子どもたちは空飛ぶ車「フリップ」に乗っています。2084年はまだ遠い未来ですが、この映画にあったようなテ



クノロジーが、私たちにとっての2036年までには、どこまで現実になっているのでしょうか。

サイエンス・フィクションだと思われていた技術が、今は現実になりつつあります。超音速旅客機、静かな高速鉄道、ロボットやドローンによる配送サービス…。これらの「不思議」としか思えなかったことが、10年後には私たちの日常の一部になっているかもしれません。

しかし、私の一番の考えは、観光にとって一番大切なのは「人間の好奇心」だということです。「もっと知りたい」「色々な場所へ行ってみたい」「違う文化の人と話してみたい」という、知りたい気持ちが観光を動かす力になります。テクノロジーはその気持ちを実現するのを助けるものであって、旅行をもっと安全に誰でも行きやすくするものです。

今日という日は、私たちの2036年に向かう小さな一歩です。新年に計画を立てながらも、楽しい驚きのためにスペースを残しておきましょう。

皆様、心から新年おめでとうございます！新しい年が、皆様にとって、新しいアイデアへの情熱や、輝かしい体験への喜びで目が輝く一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます！

2026年もよろしくお願いたします。



「10 年後の日本とわが社」

キリチェンコ オリガ (JIC 東京)

みなさん、明けましておめでとうございます。

2025 年はいかがお過ごしでしたか？ 私の 2025 年は、ありがたいことに忙しくさせていただき、年が明けたかと思えば、あつという間に今このコメントを書いているという本当に充実した一年でした。毎年、何を書こうか迷いますが、今年是我的のちょっとした気づきからの日本の 10 年後と、わが社の在り方について少し書こうかなと思います。

日本の 10 年後の姿として 1 番に考えられるのは、デジタル化や AI のさらなる発展です。

私は今年、ロシアへ帰省する機会がありましたが、ロシアの多くの決済方法はすでに現金ではなく電子マネーに切り替わっていました。公共交通機関も専用のカードや現金ではなく、電子決済やクレジットなどで支払うことが当たり前になっていました。また、今はロシアへの直行便は飛んでいないので、北京を経由して行きましたが、北京では多くの自動車が電気自動車に切り替わっていました。日本もきっと同じような方向に進んでいくのかなと思います。

これらの技術の発展というのは、一方では便利に思えますが、観光客にとっては障壁となることもあるかと思えます。例えば、国内での専用アプリやその他の電子決済というのは、その国に住んでおらず、それらのアプリを持っていない、モバイルデータも自由に使えない観光客にとってはあまり意味をなさないものとなってしまい、現金の対応がない場所では行動が制限されてしまいます。今後 10 年でこのような発展を遂げていくであろう日本社会に対応して、旅行会社であるわが社もサービスのアップデートをしていかなければならないと思います。具体的にどのような内容を実施していくべきか。例えば、レンタル Wi-Fi サービスの紹介やモバイル決済アプリの提供などは、これからとても必要になると思います。

10 年後という随分先のように感じますが、時間が過ぎていくスピードが速い現代では、「10 年プロジェクト」などと

いった名目は皆さんもよく目にするのではないのでしょうか。それくらい現代では、先を見越した計画が重要だということの表れなのだと思います。わが社もそうですが、皆さん自身も先を見越して、10 年後の未来へ備えつつ、楽しみにしながら過ごして行きましょう。

韓国語を勉強中です

レシュク リュボフィ (JIC 東京)

みなさん、こんにちは！ 昨年もあつという間に過ぎました。2025 年は個人的に大きい出来事が特にありませんでした。暇な時、映画を見たり韓国語を勉強したりしていました。2024 年から独学で学んでいるため、進み方はゆっくりです。一部の文法や一部の名詞が日本語と似ているから飽きずに継続しています。名詞の場合、漢字の訓読みと関係があります。普通に韓国語の流れを聞いたらどこが似ているか一切わかりません。が、言葉を区別して意味を調べたら、「なるほど！」と理解できるようになります。例を以下にあげます。

日本語	韓国語	名	-	myon
山	- san	もちろん	-	mullon
家族	- kajok	俳優	-	peu
継続	- kesok	配達	-	peedal
階段	- kedan	住所	-	juso
極東	- kuktton	書類	-	soryu
料理	- yori	新聞	-	shinmun
前夜	- jon`ya	時間	-	shigan

等々です (笑)。

昨年、ソウルへ 2 回旅行しました。一回目は冬の時、1 泊のみ。二回目は夏の時、4 泊でした。



ソウル南山公園からの景色

旅行には欠かせないものは、現地の食べ物ですね。韓国の伝統的なスープ料理であるトガニタンを試したくてソウル麻浦区にある「麻浦ヤンジソルロンタン」レストランに行ってみました。見た目は食堂のようですが、ミシュラン掲載のレストランらしいです。トガニタンが気に入って二日目もトガ

ニタンをいただくため、同じレストランに行きました。トガニタンとは「牛の膝蓋骨とその周辺の軟骨、肉などを長時間煮込んだもの」で、コラーゲンが豊富で美肌や滋養強壮に良いとされる健康食・保養食です。プルプルとした食感と白濁した優しい味わいのスープが特徴で、塩胡椒でシンプルに味付けし、食べる際に酢醤油につけて食べる人が多いです。一言で表すと、癒される味です。

その上、ソウルではカフェが多くて、混んでいないから、コーヒーを飲みながらゆっくりできます。

来年、機会がありましたら、韓国旅行にまた行きたいと思います。

「7年ぶりの海外へ」

佐藤 早苗 (JIC 東京)



今年完成予定？のサグラダ・ファミリア

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

昨年は幸運にも2度海外旅行に行く機会に恵まれました。パスポートを更新し、いつぶりの海外だろうと古いパスポートを開いたところ約7年ぶりでした。

6月にマレーシアのクアラルンプールに行ってきました。

クアラルンプールはまさに眠らない町。深夜まで大勢の人々が行き交い、そのエネルギーに圧倒されました。様々な国籍の人がいるので、日本人が目立つこともなく、とても居心地よく過ごせました。ペトロナスツインタワー、バトゥ洞窟、カンチンの滝、セラヤン温泉と有名どころを回りました。セラヤン温泉は足湯のような小さな石のお風呂がいくつかあるのですが、どれも熱い！ちょうどいい温度のところを見つけ、足湯でまったりしました。ここは地元の人達の憩いの場となっているようでした。

そして先月はスペインのバルセロナとポルトガルのリスボンに弾丸で行ってきました。

バルセロナはちょうど10年ぶり。今年完成予定と言われている、サグラダ・ファミリアは果たしてどのくらい出来上がっているのでしょうか。10年前の写真と比べると、前はなかった中央の塔が出来上がっていました。目に見える進捗はこの中央塔だけなのか？工事はかなりののんびりペースで進んでいると思われまます。グエル公園、カサ・ミラは10年前は無料ゾーンや外観のみでしたが、今回はどちらも入場券を購入しガウディの世界に浸ることができました。

リスボンでは初めてファド（ポルトガル民族歌謡）鑑賞を体験しました。哀愁漂うファドを聴きながら頂くグリーンワインとバカリヤウ（鱈のコロッケ）。まさに至福の時でした。

欲を言うなら、ユーロがもう少し安くなるともっと有難いのですが・・・笑

「10年後、10年後・・・」

中林 英子 (JIC 大阪)

小学校の自由研究で、世界の都市のいくつかを調べたことがありました。当時、ソ連の資料を見ているとき、スターリン建築の立派なモスクワ大学の校舎を見つけました。「ここ行きたいな〜」でも、当時はソ連、簡単に行ける場所ではないということは、小学生でもわかっていました。遠く届かない「夢」だと思っていました。それが数年後、ソ連崩壊、冷戦終結を迎えました。そして、約10年後、私はモスクワ大学の学生になっていました。大きく世界が変わった90年代、私の人生を変えた時代だったかなと思います。

さて、この先私たちを取り巻く世界はどのように変わのでしょうか。人生を変えるような10年になるのでしょうか？

10年前、ロシア旅行のハードルがこんなに高くなるなんて想像しませんでした。旅行先としてメジャーになりつつあり、もうすぐ海外旅行の人気都市の上位にランクインしそうな時だったからです。美しい建築が立ち並ぶ街の散策、観劇、コンサート、美術館巡りなど魅力はたくさんあります。ロシア文学や芸術を知っていると、街が語りかけてくるようです。でも、予備知識がなくても豪華さや雄大さに圧倒されます。

私のモスクワの友人が時々「モスクワはこんなに美しいのよ、遊びにいらっしやい。」と写真を送ってくれます。美しい世界を今、見ないなんてもったいないと。街のイルミネーション、ドレスアップしてコンサートやレストランに行った写真など。そう、これが今、冬のモスクワの楽しみ方でもありますよね。最近、ロシアではアイアスショーが、頻りに開催されていて、「くるみ割り人形」や「シンデレラ」など、バレエの世界が氷上で演出されています。広告からもキラキラした雰囲気が伝わってきました。こんなのをやっているって想像しただけでワクワクしてきて、やっぱりロシアのフィギュアスケートが好きだなんて思いました。

10年後、いえ、もっと早く「最も近いヨーロッパ！気軽にロシア旅行」ができるようになっていくでしょう。でも旅は「生」の舞台と同じ、その瞬間しか出会えないものがあります。数年先なんて待ってはいられませんね。



写真はロシアと関係なく、パルテノン神殿を背景に

「笑顔について」

井上 沙弥香(JIC 東京)

モスクワで暮らしはじめた頃、私はよく笑っていた。

理由があったわけではない。日本で生きてきた癖のようなもので、初対面では笑う、困ったら笑う、沈黙が気まずければ笑う。笑顔は感情というより、体に染みついた動作だった。

スーパーのレジでも、学校でも、観光地でも、私はよく口角を上げていた。ロシア語がうまく出ないときほど、笑顔に頼った。言葉が足りないぶん、表情で埋め合わせようとしていたのだと思う。笑っていれば、まあ何とかなる。当時は、それを疑う発想すらなかった。

ある日、知人に言われた。「どうして、そんなに笑っているの？」

非難でも皮肉でもなかった。ただ、本当に不思議そうな顔だった。その瞬間、私は答えに詰まった。なぜ笑っているの



か考えたことがなかった。私にとって笑顔は選択ではなく反射だったからだ。

ロシアでは笑顔はとても正直だと思う。嬉しいときに笑い、楽しいときに笑う。それ以外の顔は基本的にニュートラルで、そこには「とりあえず笑っておく」という発想はあまりないようだった。はじめてロシアを訪れる日本人はまず彼らのその冷たい表情に戸惑うだろう。日本では、店員は笑顔で迎え、笑顔で送り出す。笑顔は礼儀であり、潤滑油であり、時には鎧でもある。

それがロシアでは、必要な言葉だけが置かれ、感情は添えられない。最初は、その無表情が少し怖かった。会話が淡々と進み、相手の反応が読めない。嫌われているのではと不安になることもあった。けれど、しばらくすると気づいた。彼らは冷たいのではなく正直なのだ。助けるときは助ける。必要なことは言う。それ以上は踏み込まない。笑顔が少ない代わりに、態度がぶれない。

私も少しずつ笑わなくなった。正確に言えば、「意味のない笑顔」をつくらなくなった。わからないときはわからないと言う。困っているときは困っている顔のまま。笑ってごまかさない代わりに言葉を使うようになった。それは、少し怖くて少し楽だった。

数カ月の滞在を終え、日本に戻った。すると、驚くほど自然に私はまた笑い始めた。電車の中で、店で、学校で。理由はない。ただそこが「笑顔をつくる場所」だったからだ。

人は、生きる環境によってこんなにも簡単に振る舞いを変える。意志や性格よりも場所の力のほうがずっと強いのかもしれない。そう思うと少しおかしくなる。

あれから何年も経った今でもときどきあの問いを思い出す。今の私は笑顔をつくる自分もつくらなかった自分もどちらも否定する気はない。ただ、あの街で投げかけられた問いだけは今も心のどこかに残っている。

私は何のために笑っているのだろうか。

だいたいのことには真にやむを得ない事情がある

岡本 健裕 (JIC 大阪)

■ 1

みなさん、昨年公開されて大ヒットしているアニメ映画『チェンソーマン レゼ篇』は観ましたか。私は観ました。そして予想外のところでぶったまげました。唐突にソ連映画が出てくるんですよ。それは主人公の青年デンジとその上司の女性マキマが、あちこちの映画館をはしごして回るという、ちょっと変わったデートをするシーンです。映画漬けの一日を過ごした二人が最後に選んだ作品が、タイトルは見えませんが、どうみてもソ連映画の『誓いの休暇』(の忠実なアニメ化!) だったんです。

本物の『誓いの休暇』はド直球の感動モノなのですが、チェンソーマンの世界では「難しくてよくわからないと評判の映画」という設定になっています。でも、それまで何を観ても全然心に響かなかったデンジとマキマは、ここで初めて涙を流すんですね。ああ、いい演出だな、もうこのシーンだけでチケット代の元取れたな、とか思ってたら何と、直後にマキマも全く同じことを言うんですよ。やられた、完全に掌の上じゃないか。(チェンソーマンの原作漫画を読んだ方はもちろんこのセリフをご存じですが、私は未読で知らなかったのです。)

スクリーンの向こうのスクリーンでかかっている映画を登場人物たちと一緒に観る、という入れ子構造だけでもう、十分、原作漫画を凌駕する 3 次元体験になっているのに、その入れ子の階層を越えてセリフまでシンクロしてしまったんだから、ちょっと出来過ぎですよ。

驚いたことはこれだけではありません。登場人物が突然ロシア語で歌い始めるのです。それは作品のタイトルにもなっているレゼという女性なのですが、彼女は何の前触れもなくロシア語で歌うので、これにも意表を突かれました。レゼを演じたのは上田麗奈さんという声優ですが、きっとものすごく練習されたんだろうと思います。本当にうまかったですよ。

この作品に限らず、日本のアニメ作品にロシア語のセリフが出てくることはたまにあります。でも、その全ての出来がいいわけではありません。私は声優の仕事を中心に尊敬していますが、(だからこそ) 演技のプロにこんな仕事をさせてはいけなと、いたたまれなくなるようなロシア語に出会うこともあったりなったりします。

チェンソーマンの映画に出てきたロシア語の歌は作品オリジナルのようです。説明は一切ありません。ロシア語がわからない人は置いてけぼりだし、ロシア語がわかったところで、



謎だらけの歌詞なんです。だからこれは誰に聴かせるわけでもなく、ただレゼが歌いたいから口ずさんでいるんですよ。観客など知ったことかと。

作るのにめちゃく

ちや手間がかかるアニメーションでそんな表現をされてしまうと、あ、このキャラは手加減してくれないんだな、とわかります。もう止められない強さと疾走感がスクリーンからどンドン溢れてくるんです。そりゃヒットするわけですよ。

■ 2

さて、私は JIC に在籍しながら、ティグレという組織内の税理士法人へ出向してそろそろ 4 年が経ちます。ティグレはグループ内に政治団体を持っており、毎年、「国への要望書」をまとめて関係諸機関へ要請活動を行っています。

せっかくなので、去年私は以下のような内容を要望書に載せることを提案しました。

「政府には『ロシアは日本の安全保障上、決して研究を怠ってはならない地域であるから、たとえ外務省の危険情報がいかなるものであっても、志ある者のロシア留学については、政府としてこれを妨げない』というメッセージを発していただきたい」

果たしてどうなったか。2025 年 9 月 12 日、外務省の危険情報が更新され、ロシアへの渡航について、「ただし、真にやむを得ない事情がある場合には渡航・滞在することは妨げません」という文言が現れたのです。これってほぼほぼ丸呑みしてもらえたようなものではないですか! やってみるもんだ。

ところが、あとでティグレの「国への要望書」を見せてもらうと、私の提案は載っていませんでした。不採用だったんですね。つまり、政府の中にも、私と志を同じくする方がいて、そうなったということなのでしょう。よかったです。要望などしなくとも、望ましい方向へ世の中が動くならば、それが一番いいからです。

■ 3

世の中のだいたいのことは先回りされていて、私は誰かの掌の上ってことです。夢に描いたことのいくつかは 10 年で実現できたつもりですが、どれも錯覚かもしれません。私の中学生の娘が言うことには、仲のよい友人がいま、ソ連・東欧史に強い関心を持っているのだそうです。この友人は私の大切な娘に『まどマギ』や『シャミ子』を教えるという英才教育を施してくれた恩人なのですが、このまま行くとさらにまずいことになるかもしれません(いいぞもっとやれ)。ちなみに娘はチェンソーマンを原作漫画から映画までフル履修済みです。このまま世界の果てを目指すがいい。父は止めん。

「10 年後の夢」

神保 泰興 (JIC 東京)

明けましておめでとうございます。

私たちを取り巻く国際的な環境は、引き続き厳しい状況の中ですが、皆様の支えもあり、ロシア以外の各国などを含め、お客様の渡航のお手伝いをする機会も徐々に増えてきました。6 月には、昨年に引き続き、海外添乗 (バルト 3 国) に行かせていただき、グループのお客様と共に、一度は行って見たかったリトアニア・シャウレイ郊外の「十字架の丘」を初訪問することもできました。

11 月初旬には、中央アジアのキルギスに行って参りました。キルギスは、学生時代から数えて 4 度目、実に 17 年ぶりの訪問になります。この国は、いわゆる「映える」名所・旧跡などは、隣国のウズベキスタンなどに比べ、決して多くありません。しかし、中央アジアの真ん中、天山山脈と支脈のアラ・トゥの山々に囲まれた美しい豊かな自然、そして何より、私が思う最大の魅力は、日本人に似た風貌の、素朴でお客様好きな、キルギスの人々が温かく迎えてくれることです。

キルギス人の多くはイスラム教徒ですが、世俗化が進み、戒律の厳しさを感じることはほとんどありません。首都のビシュケクはロシア人が建設したソ連風の都市で、街ではロシア語が普通に聞かれ、キルギス語よりもロシア語の看板が多く目立つくらいです。今回、4 度目でやっと、キルギスを代



表する景勝地、標高 1600 メートルの高地にある琵琶湖の 6 倍もある古代湖「イシク・クル」にも足を運ぶことができました。

私自身、過去 3 回現地を訪れた経

験から、多くの方々に、キルギスの良さを力説して回ってきました。実際に、複数のお客様がキルギスを訪れて下さり、満足したとのお声をいただくことができます。

まだまだ若輩者のつもりでいましたが、世間一般の常識からすると、第 1 線で仕事を続けられるのも、あと 10 年余りになります。今の厳しい状況が、早く改善していくことを期待するばかりですが、キルギスのような、まだまだ知られていない、現地の魅力を紹介し、そこで暮らす多くの人たちとの交流、相互理解のお手伝いを少しでも多く進め、少し大風呂敷ですが、世界の平和と繁栄に貢献できたと、自身に誇れることのできる 10 年後でありたい、と夢見ています。

今年もどうぞよろしくお願ひ致します。

《協力のお願い》

モンゴルの超温かいヤクの靴下をはいて、モンゴルの貧困学生の就学援助にご協力ください！

JIC ではモンゴル・ゾルグ財団の呼びかけに応じて、ヤク・ウール 100% の靴下 (男性用/女性用) を販売しています。
1 足 2000 円 (送料別/3 足以上お買上げで送料無料)
申込み・問合せは ☎ TEL: 03-3355-7295
是非、ご協力ください。

MONGOL Yak Socks

For men

Mongolia

Hanti-ahazet
National flag icon

モンゴル、ゾルグ財団の就学援助基金に協力下さい。

サンジャースレンギーン・オユーン会長

呼びかけ協力団体

ティグレ連合会
ティグレフォーラム
国際親善交流センター(JIC)

大阪市中央区谷町2-2-22 NSビル9F
06-6966-2596

モンゴルには、学びたくても経済的な理由で学ぶことができない学生が数多くいます。ゾルグ財団では、そのような学生を支援するための奨学基金を設立し、寄付を募っています。この靴下の販売による収益の一部は、この奨学基金への寄付金として活用されます。

皆さまの温かいご支援を心よりお願い申し上げます。

素材 ヤクウール100%

サイズ 25cm - 27cm

製造国 モンゴル

ヤク靴下の洗濯方法

中性洗剤を使用し、優しく押し洗い (手洗い) の後、形を整えて、陰干ししてください。